

入選

森田 琉加（もりた るか） 松枝小 3年生

作品名：人の気持ちを考える

図 書：夏のねこ

ぼくは「夏のねこ」という本を読みました。

この本をえらんだ理由は、ぼくの家にも今年の夏に子ねこがまよいこんできたので、気になったからです。

この本は夏の夕方になるとやってくる三毛ねことベンというしょう年のものがたりです。ベンはねこに「りんごひめ」という名前をつけてかわいがっていました。そしてかいたいと思っていたけれど、このねこは、夏の間だけ、森のむこうに住んでいるおばあさんのねこでした。

ある日、りんごひめがいなくなってしまう。本当はベンが、うらの小屋にかくしていました。おばあさんがとてもしんばいして、さがしていました。ベンはりんごひめをかえました。

ぼくがこの本を読んで、一番心にのこったところは、ベンがおばあさんのところに、自分でちゃんと、ねこをかえしにいったところです。

ぼくはこの部分を読んで、ベンはねこが大すきだったから、ねこをかえすのはとてもかなしかったはずなのに、なくのをがまんしてちゃんとかえして、えらかったと思いました。ベンのお姉さんのアニーはとてもやさしいと思いました。ベンが、おばあさんの前でなきだしてしまわないように気をつかってくれたからです。

ぼくの家にも八月一日にくろい子ねこがまよいこんできました。やせていてびょうきだったので、せわをして元気になりました。「クウちゃん」という名前もつけました。とてもかわいいです。

もしクウちゃんが、だれかのかっているねこだったらどうしたかとそうぞうしてみました。とつぜんそんなことを言われたら、「ちょっとまってー」といってしまいそうです。でも、かいぬしにかえさないといけないなと思います。かいぬしもこまったり、かなしかったりすると思うからです。

この本を読み終わったところに、とてもびっくりすることがありました。なんとぼくのうちに、もう一匹、ねこがまよいこんできました。それもこの本にでてくるりんごひめにそっくりな三毛ねこです。けいさつとかほけんじょにれんらくしたけど、まだかいぬしがみつかりません。いまは家の中にいます。ちょっとじゃまだけど、でもかわいいです。名前はつけてないけれど、みんなは、「おばあちゃん」とよんでもこっちをぜんぜんみないから、もっとかわいい名前によばれていたはずです。

はやくかいぬしがみつかってほしいような、ほしくないような、きもちです。もうかぞくの仲間みたいなのでかいぬしがおむかえにきたら、ぼくは悲しくてないてしまうかもしれません。でも、かいぬしにちゃんとかえさないといけないなと思います。

ぼくはこの本をよんで、人のものはちゃんとかえさないといけないと思いました。また、人の気持ちを、よく考えるようにしたいと思いました。